

令和4年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

| 1 一人一人の児童生徒の尊重 | 2 道徳・心の教育の充実 |
|--|--|
| 学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。 | 学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど） |
| | |
| <p>「1一人一人の児童生徒の尊重」「2道徳・心の教育の充実」では、いずれも教職員の肯定的評価の割合が90%を越え、保護者の肯定的評価は80%程度という結果だった。全職員での共通理解のもと、一人一人を大切にしたい指導、思いやりの心を育むことに努め、コロナ禍であったが、家庭道徳の日を設定し公開授業を実施できた。1年をとらして、自分や友だちのよところ探しを意識し取り組みを行うことで、7割から10割に児童が実践できたと答えた。今後は、10%程度の否定的評価を見逃さず、全ての教育活動において人権尊重の精神を基盤に、道徳教育を要とし自尊感情をはぐくみ、思いやりの心を育てる指導に努めるとともに、個人としてまた集団として児童の成長を認め・褒め・励まし・支え、保護者との連携を深め、理解・協力を得て、児童一人一人の成長を実感・共有できるようにしていきたい。</p> | |

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

| 3 授業力向上 | 4 タブレット端末活用 |
|--|--------------------------------|
| 先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。 | 子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。 |
| | |
| <p>「3授業力向上」では、肯定的評価の割合が教職員100%となり、全教員が研究授業実践をするといった授業改善が図れた。同じ項目で、児童、保護者が84%であり、昨年度とほぼ同等の結果であった。児童・保護者の否定的評価の割合がおおよそ10%を占めている現状を真摯に受け止め、さらに個別最適化及び協働的な学びへ向かう授業改善・実践に努めたい。「4タブレット端末活用」では、教職員・児童ともに肯定的評価が80%以上であったのに対し、保護者が80%をやや下回る結果となった。タブレット端末活用については、授業及び家庭学習等、様々な場面でその活用の幅は広がり通信等を活用するなどし、家庭につながる取り組みを実践していきたい。そこでは、家庭と連携しタブレットルールの確認や日ごろの児童の活用の仕方等を定期的に振り返るとともに、授業場面においては、校内外の研修の機会や様々な実践に学びさらに効果的な活用が図られるようにしたい。</p> | |

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

| 5 学校の支援体制 | 6 共生社会を担う人材の育成 |
|---|--|
| 学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。 | 学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。 |
| | |
| <p>「5学校の支援体制」では、教職員で肯定的評価の割合は、昨年度と同じく100%であり、保護者は、わからないといった回答が23%と増えたことで、肯定的な回答は65%で昨年度を15%程度下回った。「6共生社会を担う人材の育成」では、教職員・児童の肯定的評価の割合は昨年度とほぼ同等であったが、保護者は、わからないが25%を占め、肯定的な回答が10%程度下回る結果となった。隔週水曜日放課後に「子どもを見つめる会」の時間設定を行い、児童支援に関する教職員間での情報共有を行い、今後の支援や見守り体制の確認等を行っている。また校内特別支援教育推進委員会を中心に、昨年度全く活用できていなかった専門機関であるフレンドリー教室、SC、SSW、心のサポート相談員等、様々な関係機関等との連携を図ることができ、児童支援に係る組織的な対応ができていた。児童相互の理解を図り主体性を育むため、校内においては学級種や学年を問わず、縦割り班活動など様々な場面で交流(共同)学習を行っているところである。支援体制、交流学習等それぞれについて、具体的な場面を示し認識を高めることやその達成状況を周知することが不十分であったと考えられる。学校(学級)だよりへの掲載や各種案内(定期)の配布等を用い改善していきたい。学校だより等で、校内支援体制について、積極的に保護者へ理解が深まるように伝えていく必要がある。</p> | |

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

| 7 安全と事故防止 | 8 家庭や地域との連携協力 |
|---|--------------------------------------|
| 学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。 | 学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。 |
| | |
| <p>「7安全と事故防止」では、教職員、保護者、児童でいずれも肯定的評価が80%を上回る結果となった。今年度も、交通事故につながるような事案は発生していない。登校班に実態では、下校時において曜日により登校班の人員の数や構成が変わることが確認されている。班による集団下校の在り方も含めて、PTAや地域の関係機関と連携を図り下校時の見守り体制の再確認・整備、協力依頼等を行っていききたい。また、引き続き校外での安全指導を徹底していききたい。「8家庭や地域との連携協力」では、肯定的評価の割合は、昨年度と同等の結果となった。コロナ禍の中ではあったが、徐々にwithコロナへシフトし、授業参観や各行事を工夫しながら実施でき、またできるところから学年PTA活動を再開したりするなど、連携・協力する機会も増えてきた。学校行事や地域行事等、時代に即した行事等の在り方を模索し、互いに「顔が見える」連携・協力を推進していききたい。</p> | |

⑤ 本校の教育

| 9 [正しく]学び合い | 10 [心ひとつ]協働 |
|--|-------------------------------|
| 先生方は子どもがあいさつや「ありがとう」が言え、主体的・協働的な学びに向けた授業改革を進めていると思いますか。 | 子どもは協力して学校行事などに取り組んでいると思いますか。 |
| | |
| <p>「9学び合い」では、教職員・児童の肯定的評価が80%を上回り、保護者評価はやや下回った。「10協働」では、教職員・児童・保護者ともに80%を上回り、協力しながら学校行事に取り組むことができた。予定していた学校行事をほぼ実施することができ、様々な場面で児童の活躍の場を設定し、その様子等を保護者が見聞きする機会をもつことができ、この結果に大きく影響していると考えられる。今後も、児童同士のかかわりあいの中で互いのよさや協働することによって得られる喜びを感じることができるような場や機会を児童会活動等を中心に意図的に設定・実践していききたい。</p> | |

⑤ 本校の教育

| 11 [親しまん]自己肯定感 | |
|---|--|
| 子どもは「自分によいところがある」と感じていると思いますか。 | |
| | |
| <p>「11自己肯定感」については、教職員、児童、保護者で昨年度から肯定的評価の割合がそれぞれ10%以上下回る結果となった。児童では「あまりそう思わない」「そう思わない」とした割合は約20%で、昨年度より減少した。しかし、15%が「わからない」となっており、今後も児童一人一人のよさを認め、困り感に寄り添い、実態に応じた指導や賞賛の言葉かけを行っていくとともに、全ての教育活動の中で、生徒指導の三機能「自己存在感」「自己決定」「共感的理解」を活かした授業づくりや学校教育活動の展開・充実に図っていききたい。</p> | |

来年度の具体的な取組について

- ・全30項目(教職員・保護者・児童)中、昨年度とほぼ同等、もしくは上回っていた項目数は「16」、下回っていた項目数は「14」であった。昨年度の課題を解決するために、問題と向き合い取り組んできた。その中で、b教職員、保護者、児童ともに約半数の項目で数値が下がっていた。回答項目の変更もあるが、肯定的な回答が増加するように、児童一人一人の実態に応じた指導法の工夫やきめ細かな対応、保護者・地域との連携の場の再確認(構築)、教育活動の工夫が必要である。
- ・全職員での校内研究を軸に、授業において基礎的・基本的事項の確実な定着を図っていくとともに基本的な学習態度の育成、家庭学習の習慣化など、家庭と連携した取組をさらに推進していく。学習場面に応じたタブレット端末等のICT機器の効果的な活用等を工夫していき、児童の主体的な学びにつながるよう指導方法の工夫改善、充実を図っていききたい。
- ・「自己肯定感」をはぐくみ、高めるためには、教育活動全体を通して、また、家庭との連携を図りながら継続的に取り組んでいく必要がある。授業や諸行事等様々な教育活動の中で、「自己決定」「自己存在感」「共感的な理解」の場や機会を意図的につくり、自尊心をはぐくみ、自己肯定感を高められるように工夫していききたい。また、コミュニケーションスキルを高めるためのトレーニングの時間や場も年間を通した取り組みを今後も継続していききたい。
- ・学校、家庭間の連携が円滑になされるよう様々な連絡手段を用い、開かれた学校に向けタイムリーな情報交換・共有に努めるとともに、タブレットを用いた配信や学校HPの充実を図り、教育活動を保護者・地域にさらに公開していききたい。

学校関係者評価

- ・授業参観後の感想では、互いの学びを共有する時間として、児童の感想発表・交流の場が設定してあったことはよかった。中でも、2文以上で発言した児童がいたが、そのような発表に対して、教師が意図的に視点をもって賞賛の言葉をかけ、児童の意欲を高めていく必要がある。それが、他の児童の表現する際のお手本になると同時に表現力を育成していくことにつながる。そのような積み重ねを大切にしてほしい。
- ・学習中の姿勢が崩れている児童がいた。学習へ向かう土台づくりとして学習規律・姿勢の指導等、学校全体で継続的に徹底して取り組むことを大切に、今後も1年をとおして「ぐー・べた・びん」などの取り組みを継続してほしい。
- ・「6 共生社会を担う人材の育成(交流・共同学習・相互理解)」で、評価が下がっているとのことだが、その肯定的評価の割合の低下のみを注視するのではなく、「わからない」を選択・回答したことに対する評価者への具体的な返し、取組を今後どうしていくかという部分を明らかにし、学校全体の課題とし、小中一貫・小小連携も視野に入れて、取り組んでほしい。
- ・下校時に車道へはみ出して歩行している等、危険な場面も見られた。安全指導を徹底するとともに、安全担当者を中心に可能な時間に下校指導をお願いしたい。